

講演会のご案内（立命館大学・細尾萌子）

## 授業をみるフランス的視点～日本の授業研究から抜け落ちているもの～

2025年3月22日（土）

13：00～16：00 講演会

参加無料 誰でも参加可能 途中参加・途中抜けOK ハイブリッド（対面とオンライン）

場所：立命館大学衣笠キャンパスの平井嘉一郎記念図書館カンファレンスルーム（右記マップの1）<https://www.ritsumei.ac.jp/file.jsp?id=227619&f=.pdf>

図書館の入口に入ってすぐのところを左に曲がる。図書館カウンターの中に入らない。

〒603-8577 京都府京都市北区等持院北町 56-1

17：00～19：00 懇親会（串八白梅町店）Tel: 075-461-8888

申込制 2025年3月7日（金）までに下記の google フォームから申し込み

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdO1fQyAF4MwfGUTfuFd2iFLrh2Y4dtEfxghSv7mqJCIE0yg/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdO1fQyAF4MwfGUTfuFd2iFLrh2Y4dtEfxghSv7mqJCIE0yg/viewform?usp=sf_link)

（締切を過ぎたけれども参加したい人は前日までに下記までメールで連絡してください。

細尾萌子のメールアドレス：[hosoo@fc.ritsumei.ac.jp](mailto:hosoo@fc.ritsumei.ac.jp)）

### ○登壇者

1) 講演者：パリ第8大学教授のステファン・ボネリー氏（Stéphane Bonnéry）

教育社会学者。関連する主著書は、Stéphane Bonnéry, *Comprendre. L'échec scolaire.*

*Élèves en difficultés et dispositifs pédagogiques, La dispute, 2007.* 家庭環境が恵まれない子どもが多い教育優先地域の小学校5年生と中学校1年生の学級を2年間観察（フランスでは6歳入学の小学校が5年制、中学校が4年制）。このデータをもとに、教材の選択や教材の使い方といった日々の授業における教え方から学習困難が作り出されており、それが社会階層間の格差の拡大につながっているということを主張した本。

2) 指定討論者：渡辺貴裕氏（東京学芸大学）

教育方法学者。授業研究について多数の著作 渡辺貴裕・藤原由香里『なってみる学び 演劇的手法で変わる授業と学校』時事通信社、2020年。渡辺貴裕『授業づくりの考え方 小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ』くろしお出版、2019年など。

3) 通訳：白鳥義彦氏（神戸大学）。専門はデュルケムを中心とするフランス社会学の理論的研究

## ○趣旨

日本では1920年代ころから、教師が互いの授業実践を見合って分析し、教師としての専門的力を高め合う授業研究がなされてきた。そこには外部講師として研究者がかかわることも多かった。こうした授業研究の成果は、公開授業研究会などによって外部に発信され、学外の教師の力量形成にも役立てられてきた。

一方、フランスでは、教授の自由の観点から、そもそも教師が互いの授業を見合うことは少なく、教師としての専門性は各自が個人的に高めるという伝統があった。また、教育方法を扱うペダゴジーは学問として蔑視されてきた歴史もあり、教育実践を対象とした学術研究はあまりなされてこなかった。ただ、1970年代からは、教師と研究者が協働して学校の具体的な機能を分析する、日本の授業研究に似た研究が見られる。

ボネリー氏は、日本発の授業研究（レッスン・スタディ）を輸入するのではなく、フランスで伝統的に行われてきた社会学研究の蓄積に基づいて授業実践の研究を行っている、フランスではめずらしいタイプの研究者である。

ボネリー氏の問題意識や、その一環としてなぜ授業の研究を、とくに教材に焦点をあてて行っているのか、その研究からわかったことを聞くことで、授業をみるフランス的視点に迫りたい。また、ボネリー氏は社会学者であるが、教育方法学を専門とする渡辺氏に指定討論をお願いする。これにより、社会学的な授業の見方と、教育方法学的な授業の見方の比較ができる。そこから、日本でよく行われている、教育方法学的な授業実践の研究から抜け落ちているものを探究したい。

## ○プログラム

- ① 趣旨説明 10分
- ② ボネリー氏の発表 70分：教室で行われていることがより広い社会的論理に従っていることを理解するために、教材を研究する（段落ごとに白鳥氏によるミニ解説を入れる）
- ③ 渡辺氏の指定討論 20分：ボネリー氏の発表を受けて ～日本の授業研究（lesson study）の視点から～
- ④ 通訳（渡辺氏のつけたし部分の通訳） 5分

～休憩 10分～

- ⑤ 指定討論への回答 15分
- ⑥ 全体討議（40分）
- ⑦ まとめ（10分）

\*フランス教育学会研究懇話会として開催。

\*JSPS 科研費 19H01635 基盤研究（B）研究代表者：細尾萌子「フランスの論述型大学入試で問われる思考力・判断力・表現力とその育成法の総合的研究」を一部使用する。